



彼らはあなたの家で何を見ましたか

暗唱 聖句

「しかし、あなたがたは、選ばれた民、王の系統を引く祭司、聖なる国民、神のものとなった民です。それは、あなたがたを暗闇の中から驚くべき光の中へと招き入れてくださった方の力ある業を、あなたがたが広く伝えるためののです」

(Iペテロ2:9、新共同訳)

「しかし、あなたがたは、選ばれた種族、祭司の国、聖なる国民、神につける民である。それによって、暗やみから驚くべき光に招き入れて下さったかたのみわざを、あなたがたが語り伝えるためである」

(Iペテロ2:9、口語訳)

今週の 聖句

イザヤ38章、39章、Iコリント7:12～15、Iペテロ3:1、2、ヘブライ6:12、13:7、IIIヨハネ11、イザヤ58:6、7、10～12

安息日 午後 6/15

今週のテーマ

もしかすると私たちは、主に感謝すべきことに、(少なくとも今は)生活が順調にいつている段階に至っているかもしれません。家族も、仕事も、健康も家計も順調という段階です。あるいは、そうでないかもしれません。しかしいずれにしても、ヒゼキヤ王を訪問したバビロンからの密使のように、だれかがあなたの家庭を訪ねて来たとき、のちにイザヤが王に尋ねた質問——「彼らは、あなたの家で何を見ましたか」(イザ39:4、口語訳)——に対して、どんな答えが返ってくるでしょうか。

人々はあなたの家で何を見ましたか。天使たちは何を見ましたか。私たちの住まいには、どんな精神が充満していますか。祈りの「香り」がしますか。親切、寛容、愛があるのでしょうか。それとも、緊張、怒り、憤慨、敵意、仲違いがあるのでしょうか。そこを訪れた人は、イエスがこの家におられると思いながら立ち去るのでしょうか。

これらは、私たちが生み出した家庭に関して、私たち全員が自問すべき重要な問いです。私たちは今週、現代の家庭が避けがたく直面する緊張や争いにもかかわらず、すばらしい家庭生活を生み出すのに役立ついくつかの重要な事柄について考えます。

ヒゼキヤのいやしとバビロンの使者の物語を読んでください（代下 32:25、31、イザ 38 章、39 章）。聖書は、使者たちがヒゼキヤ王の奇跡的な回復に興味を抱いていたことを指摘しています。しかしヒゼキヤは、いやされた経験については何も語らなかったようです。彼は、真の神を知りたがっていたこの使者たちの心を開かせたであろうことを強調しませんでした。イザヤ 38 章における、いやされたことへの彼の感謝と、39 章における、そのことへの彼の沈黙とは、著しい対照をなしています。

「神はヒゼキヤを試み、……彼を捨て置かれた」。この公式訪問は、非常に重要な機会でした。しかし、ヒゼキヤが祈りつつ預言者や祭司から特別な導きを求めたという記録はありません。神も介入しませんでした。人目のつかない所で、霊的助言者と相談することもなく、ヒゼキヤは独り、彼の人生と彼の国民の人生における神の働きを、どうやら頭の中から遠ざけたようです。歴代誌下 32:31 における歴史家の意図は、神の祝福がいかに簡単に当然のものともみなされるか、また彼の憐れみを受けた人がいかに自己満足に陥りがちであるかを示すことだったのかも知れません。

以下は、ヒゼキヤの経験から学ぶことのできる、家庭生活の中での誠実さに関するいくつかの教訓です。

クリスチャン家庭への訪問は、すべて、人々がキリストの弟子たちに会う機会です。霊的な事柄について会話ができる訪問者たちは、わずかしかいません。クリスチャンは、良い知らせを伝える機会にふさわしく、かつ繊細な方法を見いださなければなりません。

クリスチャンは、自分の物質的繁栄や業績を神からの祝福と認めても構いませんが、それらを見せびらかすために召されているわけではありません。彼らが召されているのは、「あなたがたを暗闇の中から驚くべき光の中へと招き入れてくださった方の力ある業を、あなたがたが広く伝えるため」（Iペト 2:9）です。つまり、ヒゼキヤの経験を象徴として用いるためであり、自分は死につつあったけれどもイエスによっていやされたことを伝えるために召されているのです。クリスチャンは罪に死んでいましたが、キリストが彼らを復活させ、天の王座に着かせてくださったのです（エフェ 2:4～6）。

◆ 人々にあかしをするために、あなたは自宅をどのように用いることができますか。あなたの家を訪問した人に、あなたはどのようにキリストに対する信仰をより率直に伝えることができますか。

福音を伝える私たちの努力を最初に、しかも最も自然に受け取るのは、私たちの家庭の中にいる人たちです。ここ以上に重要な伝道地はありません。

問1 家で信仰を伝えることについて、ヨハネ1:40～42からどのような結論を引き出すことができますか。申6:6、7、ルツ1:14～18も参照

熱心な報告 アンデレは、単に報告しただけではありませんでした。彼は、自分の兄弟シモンがイエスと会うように手はずを整えたのです。イエスに関する熱心な報告と彼を紹介すること——私たちの家庭で血縁者に福音を伝えるための、なんと単純な方法でしょう！ 紹介したあと、アンデレは身を引きました。それ以降、イエスとペトロは2人の交流を持ちました。

子どもたちを信仰の場へ促す 家庭の子どもたちは、福音を伝える努力が必要な対象として、しばしば見逃されています。親たちは、子どもたちが家庭の霊性を単純に吸収するだろうと、誤って思い込んでいます。それを当然のことと受け止めてはなりません。子どもや若者は、彼らが観察するモデルから学びますが、その一方で、主の家族のこういった若いメンバーには個人的配慮と個人的に主を紹介される機会が必要であることも確かなのです。申命記6章は、この点にこだわっています。最も効果的な宗教教育に、注意が払われなければなりません。個人礼拝や家族礼拝といった定期的な霊的習慣を、家庭で奨励すべきです。時間と熱心な努力とが、子どもや若者たちのために注ぎ込まねばなりません。

問2 私たちは、伝道のためのナオミの努力から何を学ぶことができますか。ルツ1:8～22

ルツは、最悪の時のナオミを見ました。ナオミは義理の娘たちを追い払い、怒り、落ち込み、亡くなった者たちについて神を非難しました（ルツ1:15、20、21）。ルツのあかし以上に、たとえ不完全な親によって神を紹介されたとしても、若者が完全な神と出会い、献身できることを示す雄弁なあかしはありません。

◆ 家庭が最も重要な伝道地であるという考えは、同居する人たちへのあなたの態度にどう影響しますか。救われていない血縁者をキリストへ導くために、あなたの家族ができる具体的な試みの一覧表を、家族と協力して作ってください。

問3 新約聖書には、宗教によって分裂した結婚生活に対して、どのような勧告がありますか。Iコリ7:12～15、Iペト3:1、2

クリスチャンの伴侶であることの祝福 パウロはコリントの信徒への手紙一の中で、信仰を持たない伴侶と結婚し続けることが神を不快にさせたり、わが身や子どもたちに汚れをもたらしたりするのではないか、という改宗者の懸念に対応しています。パウロは、そんなことはない、と言います。結婚生活の聖なる状態と親密な関係とは、改宗したあとも継続すべきです。1人のクリスチャン・パートナーの存在は、相手のパートナーや子どもたちを「聖なる者とする」からです。「聖なる者とする」という言葉は、クリスチャンであるパートナーと一緒に生活することで、信仰を持たない伴侶も恵みの祝福にあずかることができるようになるという意味で理解することができます。

実にやるせないことですが、信仰を持たないパートナーは、結婚を放棄する決断を下すかもしれません。結果は深刻でしょうが、(常に人間の選択の自由を支持される) 私たちの神の憐れみ深い言葉は、「去るにまかせなさい。こうした場合に信者は……結婚に縛られてはいません」(Iコリ7:15) というものです。

平和な生活を送るように召されている 聖書は、霊的に分裂した家庭の困難にもかかわらず、キリストの平和がその家庭を支配する方法を見いだすことを明らかに望んでいます。聖書の希望は、結婚生活をそのまま保つこと、困難の中にあっても福音の勝利をあかしすること、伴侶が信者であろうとなかろうと、信者と一体であるその伴侶の快適さを増すことです。

問4 信仰を持たないパートナーに対する伴侶の責任の限界は、どこでしょうか。

慈愛、揺るぎない貞節、謙遜な奉仕、信者の側の快活なあかしは、クリスチャンでない伴侶を勝ち取る最大の可能性を生み出します。クリスチャンの結婚生活における従順は、キリストに対する恐れから生じます(エフェ5:21 対照)。伴侶がクリスチャンの従順をもって信仰を持たないパートナーに関わる時、第一に忠誠を尽くすべきは、常にキリストです。神の要求に忠実であるということは、暴力的な伴侶の虐待に甘んじることではありません。

◆ あなたの所属教会には、信仰を持たない伴侶に苦しんでいる人がいますか。もしいるなら、どんな具体的な方法で、あなたは手助けできるでしょうか。

問5 新約聖書の次の聖句において、「倣う」「見倣う」という言葉がどう使われているか、確かめてみてください（Ⅰコリ4：16、エフェ5：1、Ⅰテサ1：6、ヘブ6：12、13：7、Ⅲヨハ11）。これらの言葉は、クリスチャンになり、クリスチャンとして成長する過程について、何を物語っていますか。それは、観察学習とあかしの関係について、どのようなことを示唆していると思いますか。

新約聖書が「見倣うこと」を強調しているのは、学習過程における観察学習の重要な役割を認めているからです。人間は、自分がしっかりと見ている人やものに似る傾向があります。この原則は人間関係全般に、とりわけ見倣うことが日常である家庭の人間関係に当てはまります。家庭において、子どもたちは親や兄弟姉妹を見倣い、しばしば夫婦は互いを見倣うのです。この考え方は、いかに夫婦や家族がほかの夫婦や家族にあかしができるのか、ということへの重要な手がかりを与えてくれます。

社交が及ぼす力 私たちは、ほかの人が私たちを観察したり、何らかの形で家庭での体験を分かち合う機会を提供するとき、家庭からあかしをしています。多くの人は、見習うべき結婚生活や家族関係の良い手本がまったくないのです。彼らは私たちの家庭で、イエスの精神がいかに違いをもたらすか、目にするかもしれません。エレン・G・ホワイトは、「社交が及ぼす力は驚くべきものである。わたしたちは、周囲の人を助ける手段として、それを用いることができる」（『ミニストリー・オブ・ヒーリング 2005』341ページ）と書いています。

夫婦が別の夫婦を食事や交わりや聖書研究に招いたり、一緒に結婚成長プログラムに参加するとき、招待者たちはモデルを目にします。相互依存、肯定、共感、対立の解消、意見の違いの調整などは、キリストにある家庭生活のあかしです。

しかし、このことに関連して、私たちはいつも注意しなければなりません（エレ17：9、ヨハ2：25、ロマ3：23参照）。

キリストに倣う人に倣え 人間の手本は、みな不完全です。なのでクリスチャン家庭のあかしは、完全無欠なモデルではありません。新約聖書における見倣うという概念は、キリストに倣う人に倣いなさいという、個人への呼びかけなのです。この考えは、個人が、同じ人間であり、誤りを犯しがちな他者の生活の中で実践されているキリスト教信仰を見て、キリストに倣う人に倣うということを理解するのです。

◆ あなたの家庭をクリスチャンのあかしのためのより良い手本とするために、あなたはどのようなことができますか。

問6 以下に記した聖書のいくつかの家族の家庭における実際の出来事と、もてなしに関する聖書の言葉（イザ58：6、7、10～12、ロマ12：13、Iペト4：9）とを対照してください。行動で示されるもてなしの特徴に注目してください。

アブラハムとサラ（創18：1～8） _____

リベカと彼女の家族（創24：15～20、31～33） _____

ザアカイ（ルカ19：1～9） _____

もてなしは、休息、食べ物、交わりといったものへの他者の基本的欲求を満たします。それは自己犠牲的な愛の具体的なあらわれです。飢えている人に食べさせ、のどが渇いている人に飲ませることは、イエスに対してなされた奉仕の行為である（マタ25：34～40）、とイエスがおっしゃったとき、もてなしに神学的な意味を持たせました。伝道の働きのために自宅を用いることは、単に隣人を食事に招くことから、虐待の被害者に部屋を貸すという徹底的なもてなしまで、多岐にわたります。それには、さりげない友情、だれかと祈りをささげる機会、聖書研究を授けることも含まれるかもしれません。真のもてなしは、神の愛に触れ、自分の言動で愛をあらわしたいと願う者たちの心から生じるものです。

時として、もてなすための部屋がない、時間がない、エネルギーがない、と不平をこぼす家族がいます。信仰を持たない人たちと付き合うために、慣れ親しんでいるものを越えることに抵抗を感じたり、ぎこちなさを感じたり、不安を感じたりする家族もいます。他者と関わることで生じるかもしれない複雑な事態を避けたがる家族もいます。また多くの現代の家族は、「もてなし」と「楽しませること」を混同しています。

◆ あなたの家庭生活は、どのようにあなたの霊的状态を反映していますか。

参考資料として、『アドベンチスト・ホーム』第5章「力強いクリスチャンのあかし」、第57章「信仰を持たない伴侶に対する態度」、『ミニストリー・オブ・ヒーリング2005』第28章「家庭の奉仕」、『国と指導者』第29章「虚栄のつけ」を読んでください。

伝道における家庭の力 「真の家庭が人の心や生涯に及ぼす感化は、どんな説教よりも有力であって、……わたしたちの感化する範囲も狭く、その力も小さく、与えられる機会が少なく、学識がなくても、自分の家庭に与えられた機会を忠実に利用するならば、驚くほどの働きができる」（『ミニストリー・オブ・ヒーリング2005』340、342ページ）。

話し合いのための質問

- ① 安息日学校のクラスで、だれかの家庭の影響が、キリストのための決断を下すうえで助けとなったかどうか、尋ねてください。そのような感銘を与えたものが何であったのか、話し合しましょう。その体験から、何を学ぶことができますか。
- ② クラスとして、どんな具体的な方法で、信仰を持たない伴侶のいる家庭を支援できますか。
- ③ クラスとして、信仰に不利に働く家庭内の圧力について話し合ってください。そういった圧力のいくつかを箇条書きにし、その反対側に、可能な解決方法を書き出しましょう。
- ④ クリスチャンの私生活は、子どもたち、信仰を持たない伴侶、ほかの血縁者、訪問者たちなどへのあかしの手段です。家庭で信仰を伝えることは、必ずしも人が望むほど、あるいは血縁者や訪問者の回心をもたらすほど、完璧でないかもしれませんが、不完全な家族が完全な救い主への道を指し示そうとするのです。彼らは救い主の名であらわされた寛大なもてなしを通じて、彼らが関係するすべての人を恵みの領域の中へ連れて行きます。訪問者に対するあなたの家庭の影響について考えてください。あなたの家に入って来るすべての人に対して、その影響をより良い信仰のあかしとするために、あなたはどのようなことができますか。